

## 業務報告

### 果樹班

果樹では、温州ミカン、伊予柑、甘夏柑、ネーブル、ポンカンおよび不知火の柑橘類と、モモとブドウの落葉果樹の栽培管理を行った。

#### 1. 平成 29 年度の概要

今年の柑橘類は表年の影響もあり、発芽期、開花期ともに順調な生育となった。7月、8月と気温が平年よりも高く、11月中旬以降は気温が平年を下回る日が多かった。降水量は平年並みか平年よりも多かったが、5月から8月までは少雨で、9月と10月は秋雨前線や台風の影響で降水量が平年よりも多かった。

温州ミカンなど柑橘類は全体的に収量が増えた。樹齢と減農薬化の影響などで、ポンカン、その他の柑橘としてレモンなどの収量が減少した。落葉果樹は樹齢と実験の影響のため、モモの収量が減少した。現在、新しいモモ園で苗を育てている。

#### 2. 作付け状況と収量（販売数量）

栽植樹種、栽植年次、作付面積、販売数量および前年比を第1表に示した。今年の柑橘類は、温州ミカンは昨年より158%増の販売数量であった。伊予柑とポンカンの販売数量は昨年より減少した。不知火は、昨年より191%増となった。落葉果樹では、モモの販売量は減少したが、シャイン・マスカットの生産が安定してきたこともあり、ブドウの販売数量は昨年より増えた。植樹種、栽植年次、作付面積、販売数量および前年比を第1表に示した。

第1表 栽植状況と収量（販売数量）

栽植樹種	栽植年次	作付面積 (a)	販売数量(kg)	前年比(%)	備考
早生温州ミカン	S. 55. 6	49.0	18.331	154%	
晩生温州ミカン	S. 57. 3	36.0			
	H. 8. 3				
宮内伊予柑	S. 56. 3	46.0	3.428	71%	
甘夏柑	S. 56. 3	14.0	2.981	158%	
ネーブル	S. 56. 3	7.0	1.239	161%	
ポンカン	H. 5. 3	10.0	215	66%	
不知火	H. 8. 3	37.0	3.066	191%	
その他の柑橘		17.5	439	61%	レモン等
小計		216.5	29699	134%	
モモ	H. 12. 9	10.0	41	16%	
ブドウ	S. 61. 3	7.5	3.008	154%	
シャインマスカット	H. 22.				
その他の落葉		48.5	274	149%	キウイフルーツ等
小計		66.0	3.323	139%	
合計		282.5	33.022	135%	

今年の柑橘類は裏年のため、温州ミカン昨年より 39.9%減の販売数量であった。伊予柑とポンカンの販売数量は昨年より増加した。落葉果樹も、モモは実験の影響で販売量は減少した。シャインマスカットの生産が安定してきたが、天候の影響もありブドウの全体の販売数量は 13.7%程度減少した。

### 3. 所要労力

果樹班は、昨年と同じ 3 名で栽培管理を行った。作業別労働時間を第 2 表に示した。全体の労働時間は 4.737 時間であった。作業別労働時間の中では収穫・調整・出荷がもっとも多く、全体の 36.4% となった。また、2 月には甘夏やデコポンの収穫作業で、他班から応援を受けた。学生の職場体験学習やイベントなどでも収穫作業を行った。

第 2 表 作業別労働時間(平成 29 年 4 月～30 年 3 月)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	%
1 整枝・剪定・接木	145.5	184.5	107.5	76.5	31.0	0.0	3.0	0.0	0.0	66.5	59.0	108.5	782.0	16.5
2 施肥	0.0	0.0	3.5	0.0	6.5	0.0	7.0	4.5	0.0	6.5	0.0	23.0	51.0	1.1
3 草刈り・草削り	23.5	37.0	37.0	9.0	20.5	15.0	51.5	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	195.5	4.1
4 摘粒・摘果・袋掛	0.0	10.0	144.0	83.0	154.0	55.0	83.5	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	540.0	11.4
5 農薬散布・管理	47.5	76.5	38.0	101.0	52.5	18.0	13.0	15.0	0.0	22.0	43.0	19.5	446.0	9.4
6 灌水・防風管理	33.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	0.0	40.5	0.9
7 収穫・調整・出荷	72.5	0.0	40.5	18.0	65.5	202.0	106.5	234.0	365.5	203.5	231.0	187.0	1726.0	36.4
8 農機具管理	4.0	21.0	2.5	11.5	6.0	1.0	13.5	10.5	0.0	9.0	3.0	0.0	82.0	1.7
9 設備管理	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7.0	15.0	3.0	10.5	3.0	4.5	4.5	48.5	1.0
10 園地整備	1.0	31.5	2.0	65.0	0.0	0.0	72.5	56.0	0.0	4.5	18.0	15.0	265.5	5.6
11 調査・データ整理	7.5	5.5	1.0	5.5	12.0	4.0	8.0	3.0	6.0	34.0	5.0	11.0	102.5	2.2
12 研究・実習補助	5.0	0.0	6.5	17.0	10.5	53.5	12.0	42.5	18.0	7.5	6.0	0.0	178.5	3.8
13 共同作業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14 会議・その他	37.5	14.5	23.0	6.5	6.0	33.5	13.5	1.5	4.5	10.5	10.0	6.0	167.0	3.5
15 研修	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.5	3.5	0.0	0.0	0.0	23.0	0.5
16 他部からの応援	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0	21.0	0.4
17 他部への応援	8.0	5.5	4.0	10.0	6.0	3.0	4.5	7.0	5.0	7.0	5.0	3.0	68.0	1.4

### 4. 今年度の課題

摘果、防除など基本的な作業を適期に確実に実施するため、果樹でも栽培管理の見直しを行い、作業の省力化を推し進めていく必要がある。特に、モモは木の樹齢と実験の影響のため改植の必要性がでてきた。28 年度より実験園を、モモ園に改植している。当農場では環境に優しく、また食の安全のため、柑橘類の一部においてはエコえひめの認証をとり、化学肥料と化学農薬を使用しない栽培を行ってきた。その他においても、農薬の散布回数を通常の半分以下に抑えた。これからも、柑橘類においては農薬をできるだけ使わない栽培を続けたい。また、隔年結果を防ぐため樹幹上部摘果を行い、安定した管理を行いたい。同時に、有望柑橘類への品種更新も行っていきたい。